

# 老人福祉施設の未来 アンケート結果

(概要版)

老人福祉施設に入居する際、持つていきたい荷物は「趣味の道具」と回答した人が73%

2022/06/20

株式会社TONZAKOデザイン

交流・建築・ランドスケープの分野で、人と生き物、花やみどりが一体となった空間や体験を作り出し、感動を提供する株式会社TONZAKOデザインは、20~80代の一般生活者124名を対象に「老人福祉施設の未来アンケート」を実施いたしました。

調査結果  
ポイント

## 1. 大切なのは趣味

入居する際、持つていきたい荷物は「趣味の道具」と回答した人が73%

## 2. 入居後も働きたい

「入居後も自分の知識や技術をいかして働きたい」と50%以上が回答

## 3. 自然やみどり、花を好む

人生100年時代を豊かにするものは「自然や緑との触れ合い」と60%以上が回答

老人福祉施設に求められる環境TOPは「花や緑が美しい環境」



### ■社会背景と課題

日本の人口問題と経済成長は、現在過渡期を迎えようとしています。少子高齢化が進行し、高齢者が急激に増加しています。令和3年版高齢社会白書によると、65歳以上人口は総人口に占める割合(高齢化率)が、2020年に28.8%となりました。2065年には38.4%に達し、約2.6人に1人となると言われています。また、人生100年時代と言われるように平均寿命も伸び、2065年には男性84.95年、女性91.35年となるといわれています。

その結果、介護人材の不足、必要な介護を受けられない「介護難民」の深刻化が問題となっています。

2025年には介護人材が全国で37.7万人が不足すると日本創生会議が予測を出しています。

また核家族化が進み、1人暮らしの高齢者の増加も問題です。令和3年版高齢社会白書によると、推計では2040年には高齢者の1人暮らし率が男性20.8%・女性24.5%になると予測され、より大きな社会問題になる恐れがあります。

身体がうまく動かなくなつてひとりで家に引きこもりがちになると、地域交流の機会が減り、生きがいの低下、健康寿命の短縮にも繋がってしまいます。

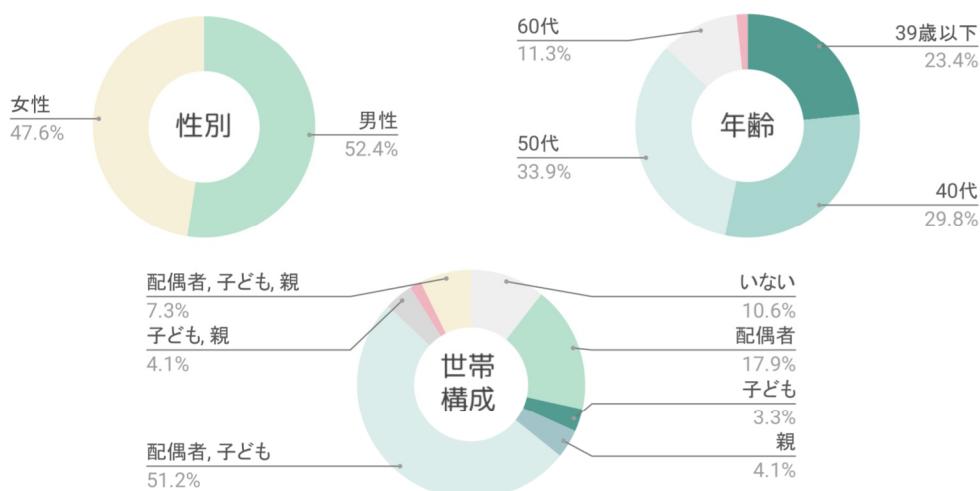
この問題を解決するには、人生100年時代、残りの人生の質を向上させることが必要です。そのため老人福祉施設から"知識・経験・趣味が財産となるまちづくり会社"へ考え方を変えていく必要があると考えました。

そこで具体的に老人福祉施設をどう変えていけばいいか、一般生活者のニーズを知るためにアンケートを実施しました。

回答者の方には、当社の提案動画を見た上でアンケートに回答して頂きました。

⇒提案動画のリンク <https://www.youtube.com/watch?v=jt2rqSFV7Dk&t=16s>

### 回答者の属性 (n= 124)

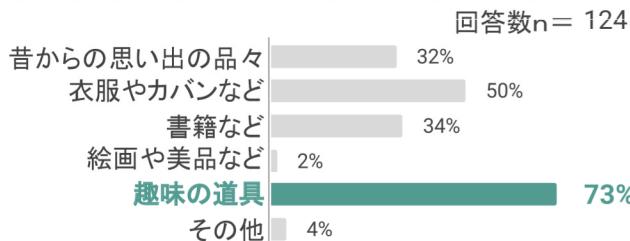


# 老人福祉施設の未来 アンケート結果

(概要版)

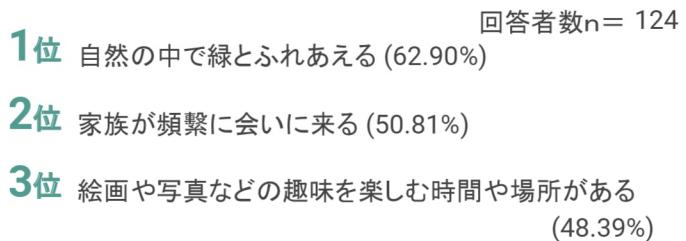
Q. 老人福祉施設に入居する際、あなたはどんな荷物を持っていきたいですか（複数回答可能）

最も回答割合が高かったのは趣味の道具でした。



Q. 人生100年時代と言われていますが、老人福祉施設に入居して、どんなことがあれば、あなたの人生は豊かになりますか（複数回答可能）

回答割合が高かったTOP3は



Q. 入居する際、あなたはどんな環境を望みますか



Q. 老人福祉施設でどのような活動をしたいですか。（複数回答可能）

回答数n = 124



## ■考察

### 老人福祉施設ではなく、まちづくり会社へ再就職する まちづくり会社では、地域を活性化し、子どもたちに知恵や技術などの文化を継承していく

老人福祉施設から、"知識・経験・趣味が財産となるまちづくり会社"へ変わることが、一般生活者からも求められていることが分かりました。

#### 求められているまちづくり会社の具体的な構成

- 自然・みどり・花・生物との共生といったキーワードが重要視されている
- 趣味の継続・知識や技術を生かした自分らしい生活

#### アンケート後の気づき

- 老人福祉施設は地域に求められるまちの活性化拠点となり得る
- 未来を担う子どもたちに知恵・経験・文化を継承する役割をもつことが大切

アンケート調査の中で、回答者の方に参考となる施設をご紹介頂きました。  
今後のサービス提供に活かすために、また事例見学として伺いたいと思います。

